

Doctor's File

ドクターズファイル

vol.3923

松田岳人院長

くりの木動物病院(磯子区/杉田)



京急本線杉田駅・JR根岸線洋光台駅から徒歩15分、飲食店や商店が軒を連ねる商店街の一角に「くりの木動物病院」はある。院長は、高校時代、大学の獣医学部付属動物病院で飼い犬の治療を目の当たりにしたことをきっかけに獣医師を志したという松田岳人先生。丁寧な説明とコミュニケーションを重視し、飼い主が受け入れられる最適な治療プランを提案している。「当院をサロンのように利用してもらいたい」と語るように、開業4年目にして多くの飼い主やペットから信頼を受け、中には散歩中に自らクリニックに足を運ぶ犬もいるほどだという。今なお昔ながらの近所付き合いが残るこの地で、獣医師界のジェネラリストをめざす先生に、医院の特徴や診療のこだわりについてたっぷり伺った。

(取材日2013年10月29日)

かつて自分のようなペットで困っている人の役に立ちたい

—どのような動物を診療することが多いですか？

犬が6割で猫が3割、残りはウサギなどの小動物です。犬では今の住宅事情もあり、トイプードルやチワワといった小型犬が比較的多いでしょうか。珍しいところでは亀などを診療することもあります。俗にエキゾチックアニマルと言われる動物はなかなか診てくれる動物病院がないので困っている飼い主さんが少なくありません。当院でもとくにエキゾチックアニマルの場合、専門的な治療を行うことはなかなかできないことがあります。当院として行える治療の範囲をお伝えしたうえで診療を行うことを心掛けています。



—先生が獣医師を志したきっかけをお聞かせください。

やはり、実家で犬を飼っていたことが大きかったですね。幼い頃から動物病院に通う機会も多く、少なからず獣医師の仕事に興味は持っていました。決定的だった出来事は大学受験を控えた頃に、犬が病気になり、足を動かさなくなったことでした。後から椎間板ヘルニアで下半身麻痺を起こしていたということがわかりましたが、私としても初めてのことだったのでどう接していいかわからず、犬を抱き上げるだけで痛みのせいで噛みついてくるような状況でした。最初は地元の開業医に診てもらったのですが、そこでは手に負えないということで大学病院の診療施設を紹介してもらいました。大学病院に行くまでは「手術が必要なのか」とか「このまま助からないのでは」と思っていたのですが、先生が的確な診断をしてくれて内科療法だけで治すことができました。このときの先生のように、家族同然のペットのことで困っている、不安に思っている飼い主さんの力になりたいと思ったことが獣医師を目指したきっかけです。

—大学生時代や勤務医されていた頃は、どのような研究や診療を行っていたのですか？



大学では獣医学科の微生物学研究室に所属し、ウイルスや細菌に関する研究を行っていました。例えば、動物病院では皮膚病の治療が多いのですが、これは真菌やブドウ球菌などの細菌が原因となっているケースが少なくありません。病気の起因菌は何なのか、またどのような抗生物質が効くのかを調べる検査を行ったことは、開業医となった今も臨床の現場で役に立っています。大学卒業後は、座間市の動物病院で7年余勤務医をしました。その院長先生は呼吸器科を専門にしていたので、私も呼吸器の診療の補助をしていましたが、このとき身につけた知識

やスキルも貴重でしたね。というのも、呼吸器科の診療は特別な設備が必要なので、標榜している動物病院は少ないんですよ。さらに、呼吸器科の疾患は症状から診断を下すのが難しいケースもあります。苦しそうな呼吸をしている、咳をしている場合は、肺や気管に疾患を抱えていることも多いのですが、心臓が悪くても咳が出ることがあるので、多方向からの診断が必要なのです。開業してからは、ホームページに載せている私の経歴を見て来院される飼い主さんもいらっしゃいます。当院で診断が難しければ勤務医をしていた座間市の動物病院や大学病院の呼吸器科を紹介することもあります。そこまで足を運ぶことが難しい方には当院で行える検査に基づいた治療を行うようになっています。

めざすは、的確な診断力を身につけたジェネラリスト

—どのような症状で来院するペットが多いですか？



季節にもよりますが、いちばんは痒みや瘡蓋(かさぶた)、脱毛を発症している皮膚病ですね。ダニ、ノミといった外部寄生虫やアレルギーなどから、二次的に膿皮症や外耳炎などを併発することが多いです。基本的には激しい痒みから掻き傷ができたり、皮膚のバリアー機能が落ちたりして、細菌感染や真菌感染を起こしてしまったりしているのです。なので、飼い主さんには予防法として衛生面に気を配り、健康的な生活を整えてあげるようにアドバイスしています。また、これからの寒い季節は、特に猫は運動量が減り、トイレに行くのがおっくうになって膀胱炎や頻尿症

状になるケースが多くなります。ひどいときには結石ができることもあります。その対策としては、水分摂取量を増やしてあげることが考えられます。ある程度行動範囲が広いところで飼われている方でしたら、水を飲む場所やトイレを増やしてみるといいでしょう。他に相談を受けることが多いのが、犬や猫の口の中に関するお悩みですね。犬の場合は、3歳以上になると歯に歯石が溜まって歯周病を発症してしまうことが少なくありません。歯周病は口臭の原因にもなりますし、時には重篤な病気を引き起こすこともあります。ご家庭で日常的にペットの歯を磨くのが難しいという方には、当院で歯石を除去するクリーニングすることをおすすめしています。必要な時は不良肉芽や細菌を死滅させることで良好な歯茎の状態を保つことができるレーザー治療も行っていますので、お悩みの際はぜひご相談ください。

—診療をする上で心がけていることを教えてください。

1つ1つの症例にしっかり向き合いたいという気持ちから、診療は予約制にしています。飼い主さんの待ち時間を減ら

すことやペットに与えるストレスを軽減するというメリットを考えると予約制がベストなのです。診療は初診だと30分はかかることが多々あります。動物病院に限らず、人間のお医者さんでもいえることですが、病院を受診する時はさまざまな疑問や不安を持って行きますよね。すべての疑問に答えるのは難しくても、考えられる原因や病状を丁寧に説明し、疑問・不安を取り除くことを心がけています。その中で、症状の説明や効果のある検査、治療法を提案する。病気以外でも、初めて犬や猫を飼ったという飼い主さんには、ペットにワクチンを接種するだけでなく、ペットとの接し方や発症しやすい症例などをお話するようにしています。病気の早期発見には、飼い主さん側にもペットに対しての知識が必要ですからね。また、動物の治療には保険が効かず、治療費を気にされる方もいらっしゃいます。そのような場合でも「この治療だとこのような効果が期待できます」といった形で伝えることが重要です。病気によっては高額な治療費がかかってしまうこともありますが、できるだけ飼い主さんの意思を尊重した上で選択肢を提示させていただきます。飼い主さんのご満足をいかに得られるかというのも治療の目的の一つですからね。

—得意とされている診療科目はありますか？

外科、内科、呼吸器科と幅広く診療を行っています。私は専門の分野に特化したスペシャリストはめざしていません。「ジェネラリスト」というとカッコ良すぎますが、広くどんな病気にも診断をつけられる獣医師でありたいと思っています。動物は言葉を話せないで、私が高校生の頃、飼い犬が椎間板ヘルニアになった時のように、飼い主さんには「なぜ具合が悪いのか」「どんな病院に連れて行けばいいのか」というのはわかりません。日頃、どんなに飼い主さんが注意深く見ているか、お腹が痛いのか、呼吸が苦しいのかを判断するのは難しいと思います。例えば、



犬が気持ち悪そうにしていたら、消化器科の動物病院に行かれると思いますが、吐き出そうとするような仕草をしていても何も出てこない時というのは、実は気持ち悪いのではなく咳をしていたなんてこともよくあるのです。的確な診断力を身につけるといのは、いちばん難しいところではあるのですが、こういった病気かがわかれば自ずとその治療法も決まってくるので、あえてジェネラリストをめざしているというわけです。

地域の方にとってサロンのような医院でありたい

—これまで印象的だった治療エピソードをお聞かせください。



当院ではペットホテルも行っているのですが、開業間もない頃、預かっていた犬が突然具合が悪くなったことがありました。それまではご飯もよく食べていたのですが、何も口にしなくなったのです。さまざまな検査を行い、肝臓にできていた腫瘍が悪化したことがわかりました。時間が経つに従って容態が悪化していったので、深夜に飼い主さんとなんとか連絡をつけて手術を行いました。その飼い主さんというのは、身内の方にご不幸があったという事情から当院のペットホテルを利用されていた方で、私としても「この子を何とか助けなければ」と必死でした。幸い、手術は成功し、その子は今でも定期診断などで元気な姿を見せてくれます。たまたま病院で預かっていたことが不幸中の幸いと言えたかもしれませんが、助けることができて本当にうれしかったです。

手術は成功し、その子は今でも定期診断などで元気な姿を見せてくれます。たまたま病院で預かっていたことが不幸中の幸いと言えたかもしれませんが、助けることができて本当にうれしかったです。

—休日の過ごし方や趣味についてお聞かせください。

じっとしていることができない性格なので、休日に家でゴロゴロしていることはないですね。たいていは4歳になる子どもと一緒に、近場であっても出かけています。特にドライブをすることが多いでしょうか。趣味といえば、開業してからは忙しくてできていないのですが、かつては陶芸にハマっていました。土を無心にこねるといのは、息抜きに非常にいいんです。私の作品は当院の受付に飾っているのですが、ご来院の際はぜひ見ていってください。また、ペットの世話も趣味と言えば趣味でしょうか。今、自宅で飼っているのは、犬1匹、猫2匹、フェレット1匹、カメ2匹です。やはり、動物が好きなので、いつの間にか増えてちゃっているんです(笑)。

—最後に、今後の展望と読者へのメッセージをお願いします。

横浜というと、人口が多くて都会的なイメージの街ですが、当院があるこの栗木は、昔ながらの下町のような雰囲気を持った地域です。地域の活動も盛んで、私も近くの栗木神社で祭っている神輿愛好会に所属させていただいています。私としても、せっかく地元のつながりが深いこの地で開業しているわけなので、地域の中に溶け込んだ動物病院でありたいと考えています。実際、犬の散歩中に立ち寄っておしゃべりだけで帰っていく方いますし、飼い主さん同士の待ち合わせ場所に使われることもあります(笑)。このように、より多くの方に気軽に利用していただけるサロンのような医院をめざしています。また、当院では、診療以外に、ペットホテルやドッグマッサージ、しつけ教室など、皆さまの大切な家族であるペットのためのサービスを広く行っています。ペットを病院に慣れさせるという目的以外にも、普段ペットの元気な姿を見ることで、疾患の早期発見につながることもありますからね。世間話だけでも構いませんので、お散歩のついでに寄っていただければと思います。

